

お さ そ い

全国体育学習研究会会長 青 木 眞

沖縄・宮古島の61回大会を終えてから1年が経とうとしています。61回大会の特徴は、研究委員会から新しい提案がなされそれを基にした議論が進められたことでした。近年、全体研に寄せられる批判的な声を凌駕し、運動と人間の関係を改めてその基底からとらえ直して実践に繋げようとした節目となる提案であったように感じます。

もう、半世紀近く経つでしょうか、人間の営みや考え方について、産業社会から脱産業社会へ、学校教育から脱学校教育へとといったように転換を意味する言葉に「脱」がよく使われるようになりました。この「脱」を冠した文脈は前を否定するというのではなく前を乗り越えるという意味をもってたと理解しています。そして、この「脱」を可能にするのは「前（これまで）」に浸り理解が深まっていることが必要であるとも言われています。

こうした考え方に拠って今回の提案を思うと、「脱楽しい体育」と言える理論であったように感じています。まさに、私たちに「脱構築」の力が試されているように思います。この「脱構築」は、「なぜ変わる必要があるのか」という文脈をぬきにして、単にAからBに変わるという理解だけでは不足です。それだけに徹底した議論の交差点が望まれます。

あれから一年、全体研阪神大会の実行委員会は「脱楽しい体育」の理論と実践に取り組んできました。そして今回の全国大会を迎えようとしています。それだけに、参加の先生方には「受容」でなく「対峙」のスタンスが求められているように思います。協議の柱は「運動のとらえ直し」「運動時の学習評価のあり方」「学校体育と地域・社会の関係構築」の三本です。

どうぞ皆さん、阪神の地に集まってスポーツの問題、体育の学習の在り方について議論を深めていきましょう。近年、多忙な環境を背景にもつ学校の教師に対して、「議論する機会が少なくなっている」とか「自分を変えることに臆病になっている」といったような批評が目につきます。全体研の全国大会こそは議論が出来る人をつくり、自分を変える契機となってきた伝統をもちます。

既に会員の方で参加される方も、どうぞ、仲間の先生方に「参加して後悔はない」と声をかけてお誘いしてみてください。

ここに改めて、第62回全国体育学習研究協議会におさそいする次第です。